



## プレスリリース

在バングラデシュ日本大使館  
JICAバングラデシュ事務所

平成 26 年 3 月 31 日

### 日本がバングラデシュの航空分野の安全向上のため 24 億 200 万円を上限とした無償資金協力を行うことで両国が署名



日本政府は、バングラデシュの航空分野の安全性を向上させるべく最大 24 億 200 万円を供与することを決定し、去る 3 月 31 日に佐渡島特命全権大使とバングラデシュ財務省経済関係局メジャバフッディン局長が書簡を交換し、併せて JICA バングラデシュ事務所の甘枝所長と同次官の間で贈与契約を取り交わしました。

供与にあたり佐渡島大使からは、バングラデシュの発展を加速させる上で航空分野の安全性向上が不可欠であると述べました。また、JICA 甘枝所長からは、JICA がチッタゴン空港の改修事業を支援した 2001 年以來の航空分野の支援であること、更に今回の支援により航空機の安全運航に問題があるとして国際社会から改善が求められていたバングラデシュにとって大きな意味があることが指摘されました。

バングラデシュでは国内の航空機需要が急増しているだけでなく、東南アジアと欧州を結ぶ路線上に位置する地理条件から、1 日あたり約 300 機が上空を飛行している昨今にあって、レーダーや航法装置の不足した状況から、航空機事故に繋がる危険性が高まっていました。

本事業は、今後 22 ヶ月間をかけて、ダッカ、チッタゴン、ジョシヨール、サイドプールの空港に対して日本製の機材を主とした供与が行われると共に、バングラデシュ民間航空局を対象に能力育成が行われる予定です。